

# **茨木市次世代育成支援に関するニーズ調査**

## **結果速報（案）**

### **（中高生）**

**平成31年（2019年）2月**

**茨木市**

## I. 調査概要

### 1 調査目的

現行の「茨木市次世代育成支援行動計画」が2019年度末で終了することから、子ども・子育て支援法に基づく「子ども・子育て支援事業計画」を含めた、次世代育成支援施策の新たな計画として「茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）」を策定することとしている。本調査は、新たな計画策定にあたって、本市の中学校及び高等学校に通学する生徒の学校生活や友人関係、家庭生活等の状況や意見・要望などを把握することを目的に実施した。

### 2 調査設計

- (1) 調査地域 茨木市全域
- (2) 調査対象
  - ・茨木市立中学校（4校）並びに大阪府立高等学校（6校・全日制）、特別支援学校（1校）に通学する生徒
  - ・中学校は2年生、高等学校・特別支援学校は1年生もしくは2年生を対象に実施
- (3) 対象者数 中学校は各校から2～5クラスを抽出し計475人を、高等学校・特別支援学校は各校から2クラスを抽出もしくは全クラスを対象に計809人を対象に実施
- (4) 調査方法 学校での自記入方式
- (6) 調査期間 平成30年12月13日（木）～平成31年1月11日（金）

### 3 回収結果

区分	配付数	回収数	回収率
中学生	475	359	75.6%
高校生	809	472	58.3%
計	1,284	1,153	89.8%

\* 高校生の配付数及び回収数に特別支援学校の生徒分を含む。

\* 回収数の計に在籍校不明分（322人）を含む。（在籍校不明は問2が無回答のもの）

### 4 調査結果の見方

- (1) 集計値は、回答不備等进行处理する前の暫定値であり、確定値ではない。
- (2) 図中の「n」は、設問に対する回答者数のことを示す。
- (3) 回答比率（%）は回答者数（n）を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示している。小数点以下の端数処理の関係で、内訳の合計が計に一致しないことがある。
- (4) 図表中に「MA%」「3LA%」の表示がある場合は、複数回答（すべてに○、3つまでに○等）を依頼した質問であり、回答比率（%）の計は100.0%を超える。
- (5) 図表において、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。

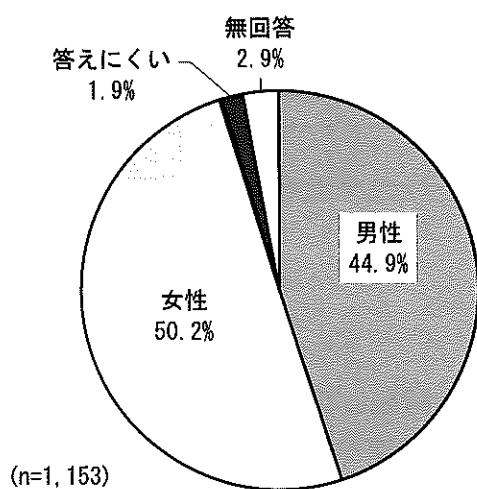
## Ⅱ. 調査結果

### 1 本人や家族に関することなどについて

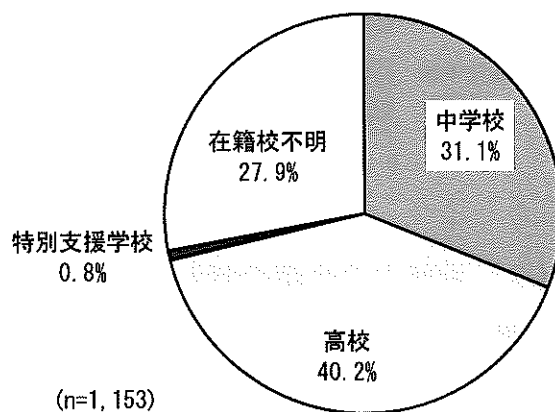
#### (1) 性別と学年〔問1、問2〕

- 回答者の性別は、「男性」44.9%、「女性」50.2%となっている。
- 在籍校は、「中学校」が31.1%、「高校」が40.2%、「特別支援学校」が0.8%となっている。
- 高校生・特別支援学校在籍者の学年は、「一年生」が37.9%、「二年生」が57.6%となっている。

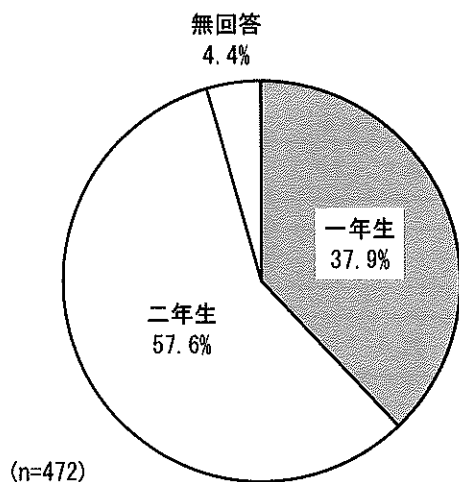
□性別



□在籍校



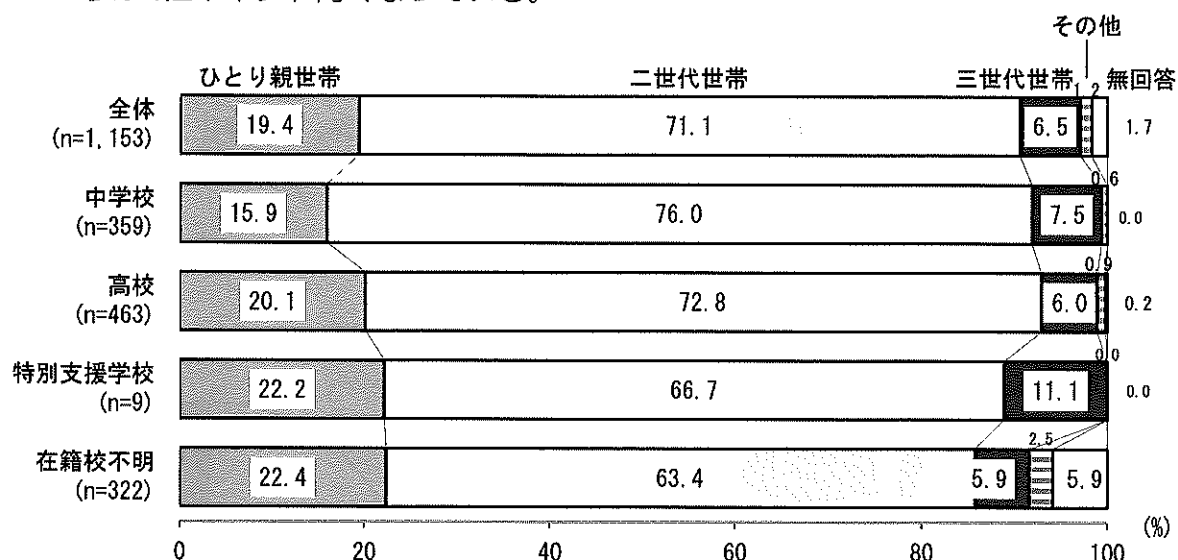
□高等学校・特別支援学校在籍者の学年



## (2) 家族形態 [問3]

■家族形態は、「二世世代世帯」が71.1%で最も多く、次いで「ひとり親世帯」が19.4%、「三世世代世帯」が6.5%となっている。

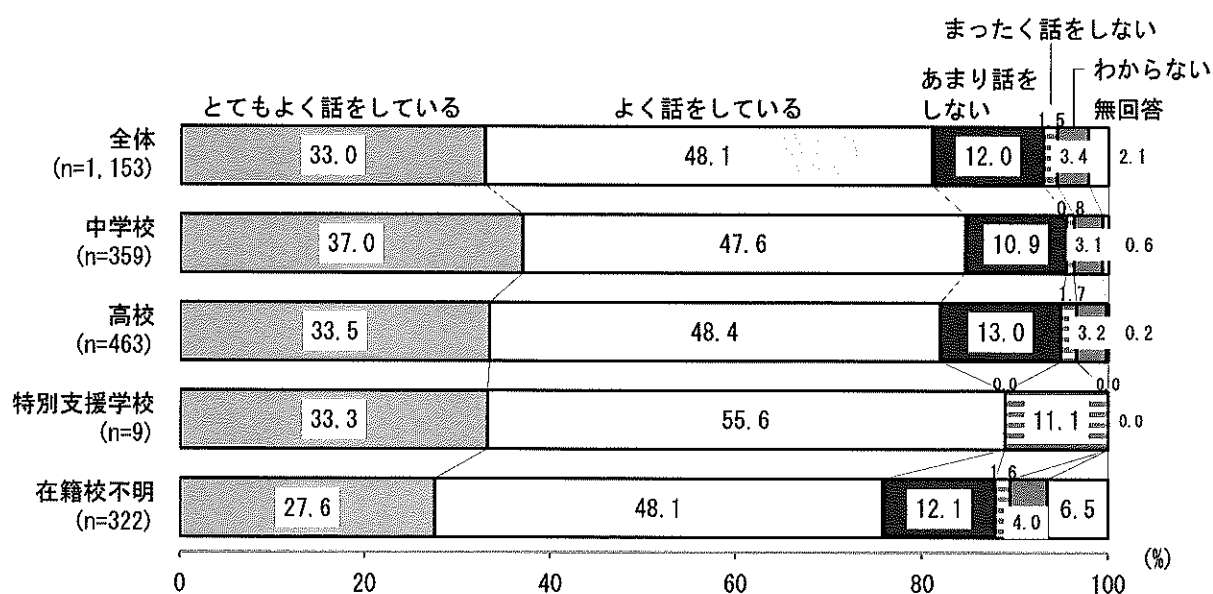
■在籍校別でみると、「ひとり親世帯」は中学校（15.9%）より高校（20.1%）のほうが4.2ポイント高くなっている。



## (3) 家族との会話の状況 [問4]

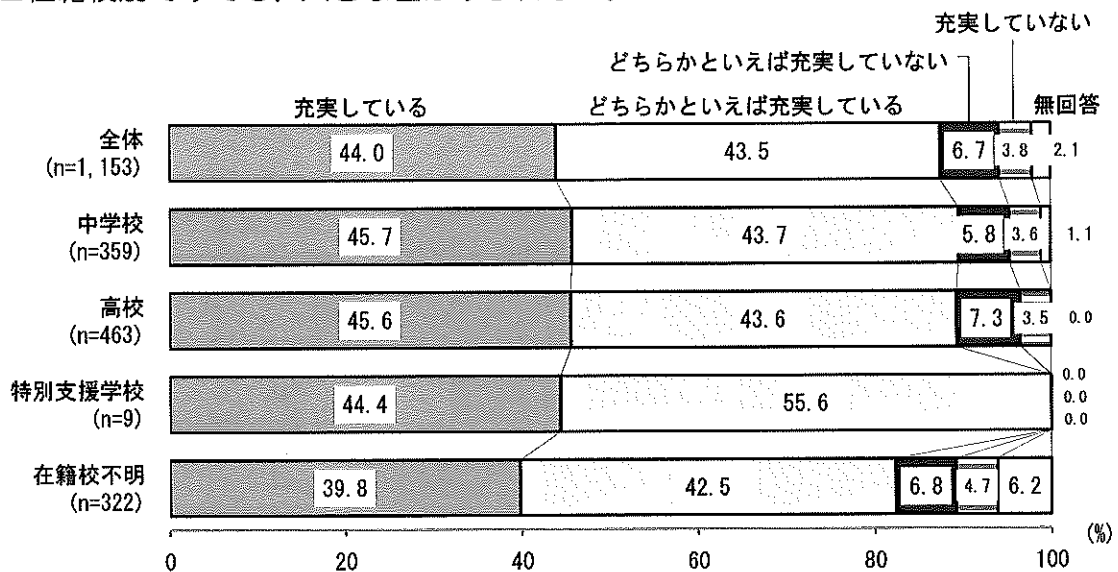
■ふだんの家族との会話の状況については、「よく話をしている」が48.1%で最も多く、次いで「とてもよく話をしている」が33.0%、「あまり話をしない」が12.0%となっている。

■在籍校別でみると、「とてもよく話をしている」は中学校（37.0%）より高校（33.5%）のほうが3.5ポイント低くなっている。



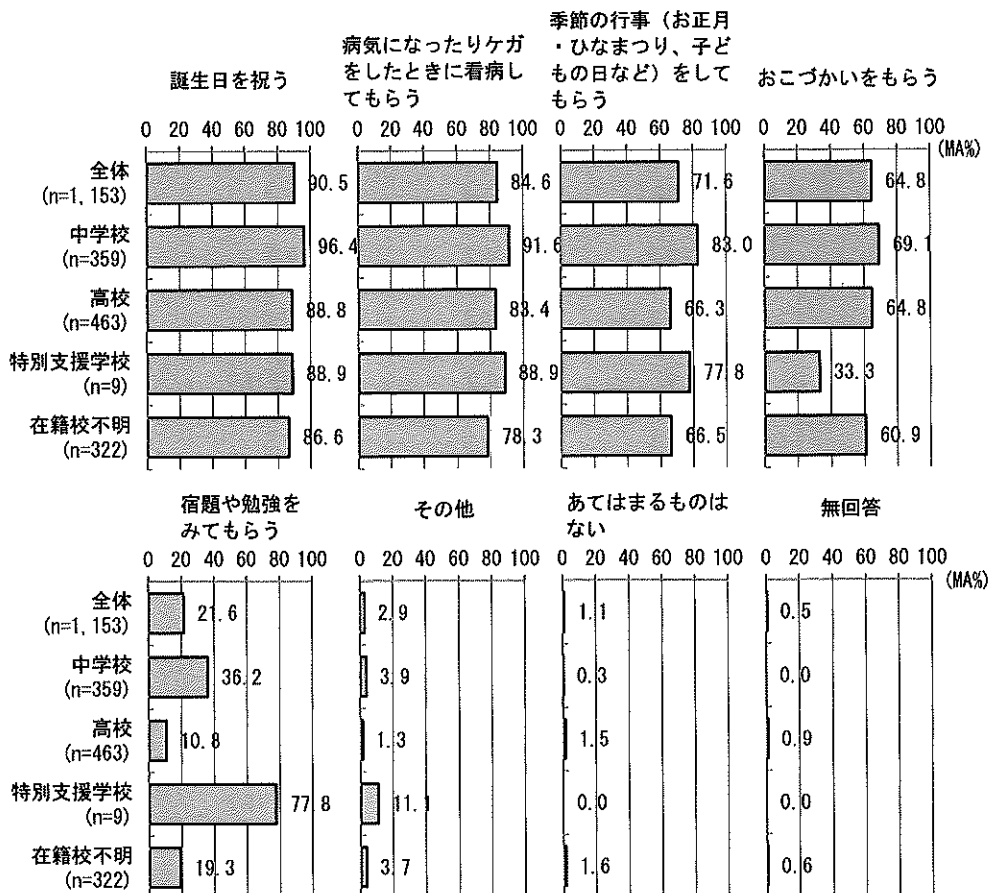
#### (4) 今の生活の充実感 [問5]

- 今の生活の充実感については、「充実している」が44.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば充実している」が43.5%となっている。
- 在籍校別でも、大きな差はみられない。



#### (5) 一緒に暮らしている人からしてもらっていること [問8]

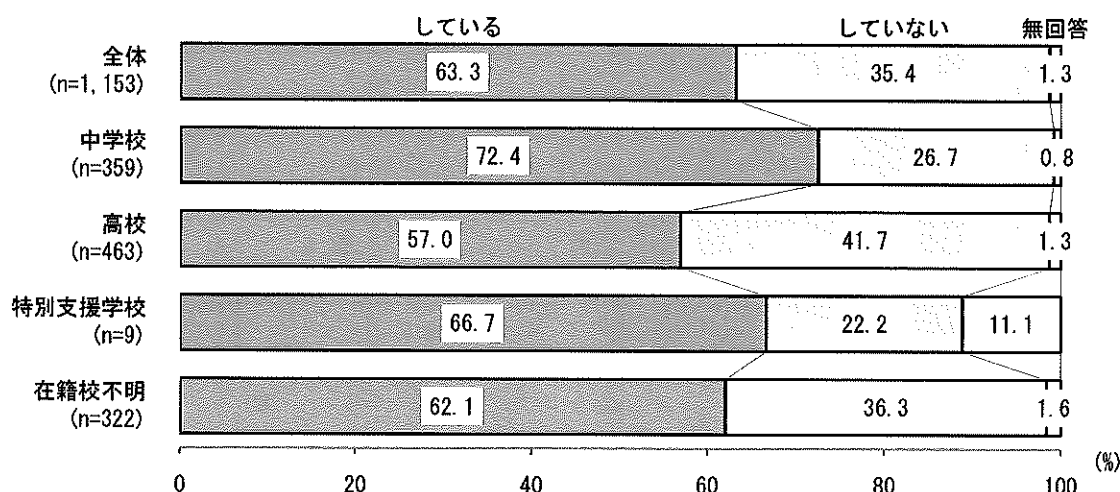
- 一緒に暮らしている人からしてもらっていることについては、「誕生日を祝う」が90.5%で最も多く、次いで「病気になったりケガをしたときに看病してもらう」が84.6%となっている。
- 在籍校別でみると、いずれの項目も高校より中学校のほうが高い割合となっている。



## 2 一緒に暮らしている人の手伝いや世話について

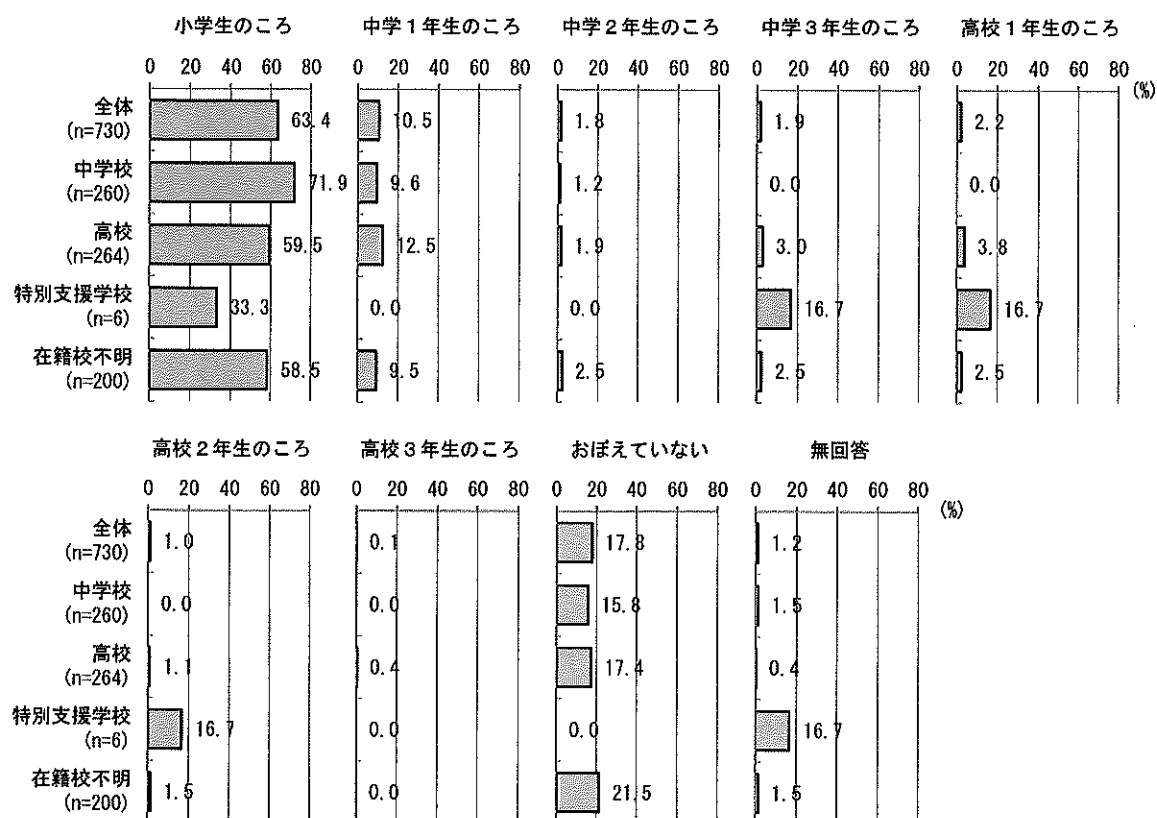
### (1) 一緒に暮らしている人の手伝いや世話の有無 [問10]

- 一緒に暮らしている人の手伝いや世話については、「している」が63.3%、「していない」が35.4%となっている。
- 在籍校別でみると、「している」は高校（57.0%）より中学校（72.4%）のほうが15.4ポイント高くなっている。



### (2) 手伝いや世話を始めた時期 [問12]

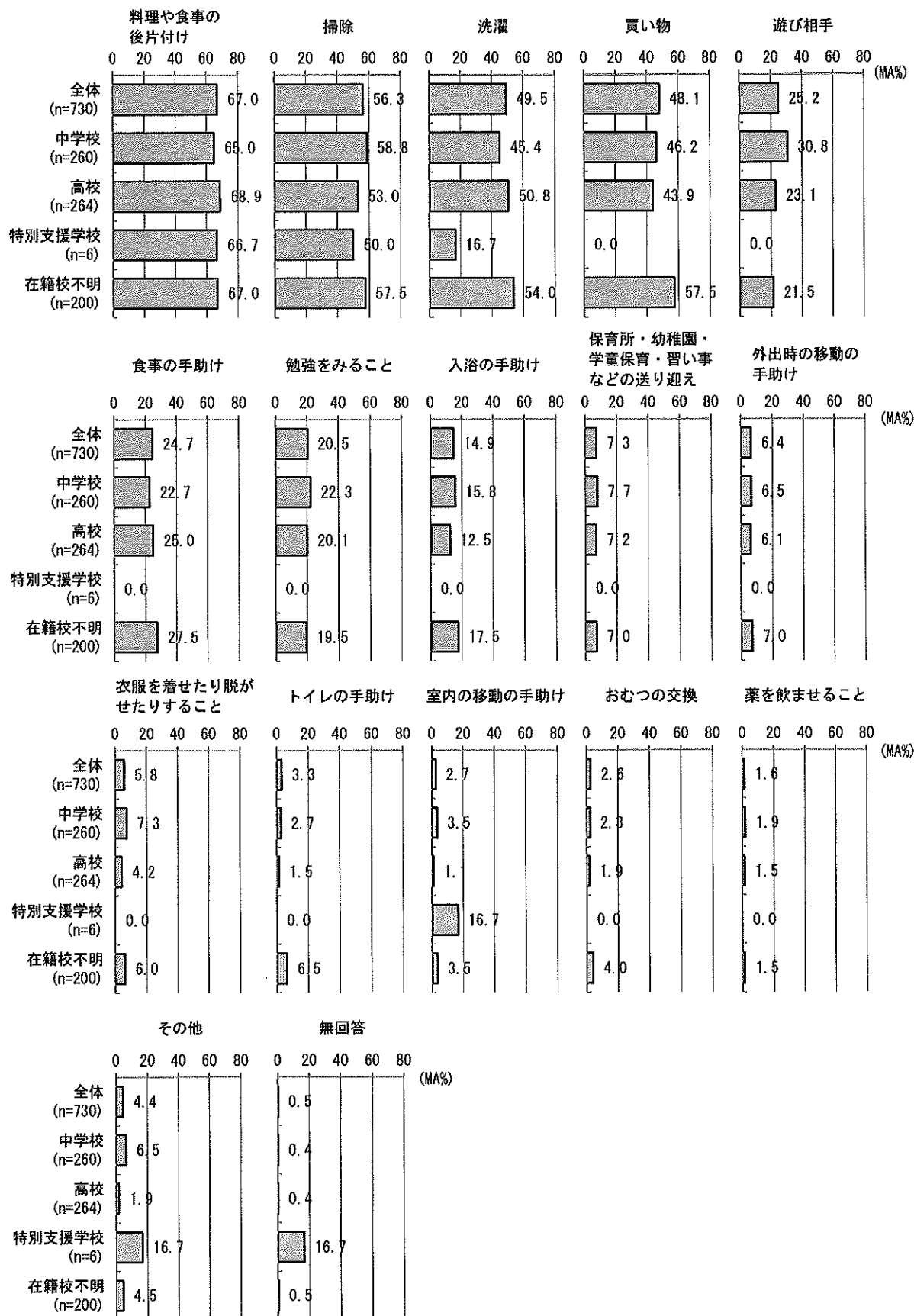
- 手伝いや世話を始めた時期については、「小学生のころ」が63.4%で最も多く、次いで「中学1年生のころ」が10.5%となっている。
- 在籍校別でみると、中学校、高校とも「小学生のころ」が最も多く、高校（59.5%）より中学校（71.9%）のほうが12.4ポイント高くなっている。



### (3) 手伝いや世話の内容 [問13]

■手伝いや世話の内容については、「料理や食事の後片付け」が67.0%で最も多く、次いで「掃除」が56.3%、「洗濯」(49.5%)となっている。

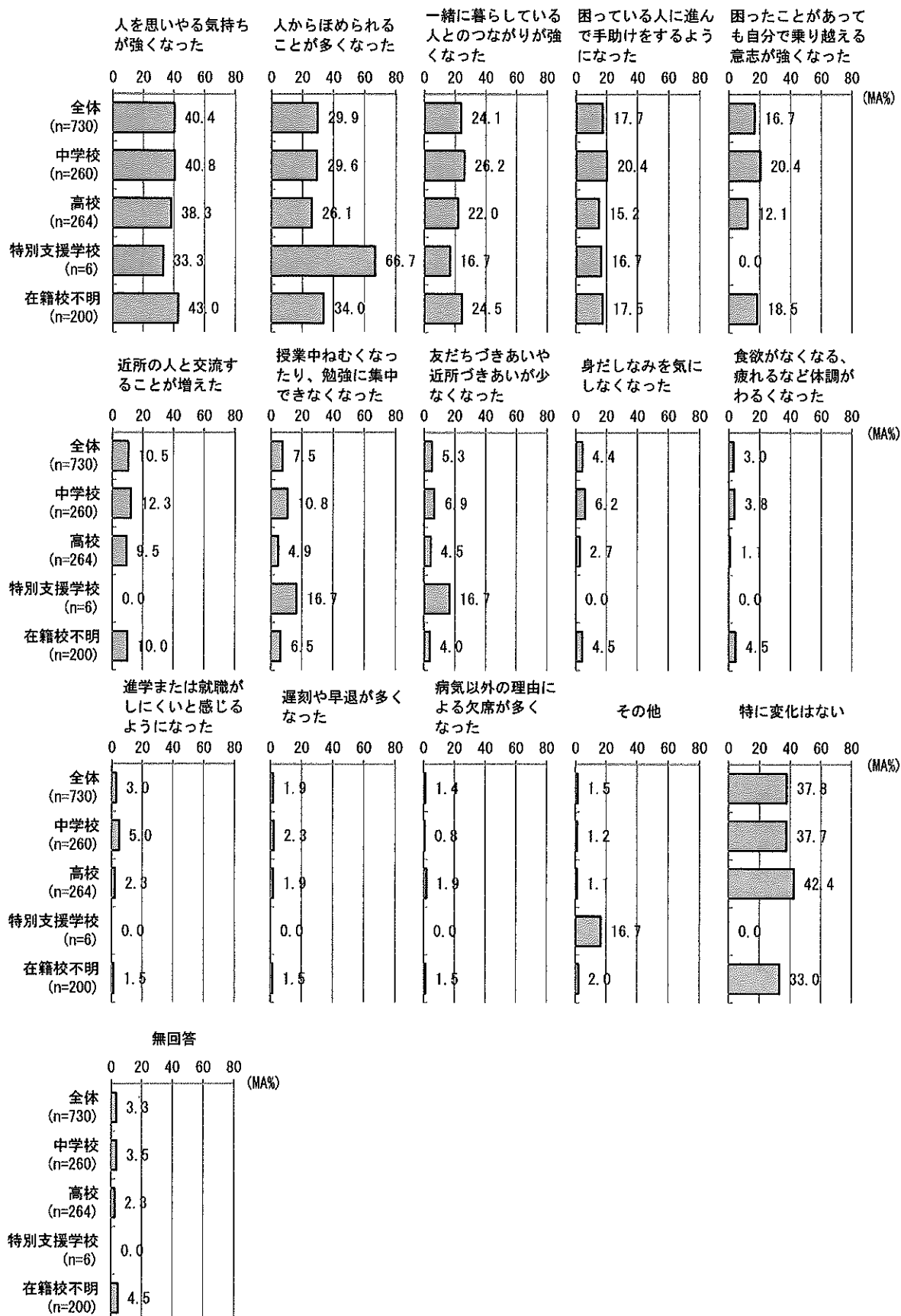
■在籍校別でみると、「料理や食事の後片付け」や「洗濯」は高校のほうが割合が高いが、「掃除」や「買い物」、「遊び相手」は中学校のほうが高くなっている。



#### (4) 手伝いや世話をすることによる生活上の変化 [問15]

■手伝いや世話をすることによる生活上の変化については、「人を思いやる気持ちが強くなった」が40.4%で最も多く、次いで「人からほめられることが多くなった」が29.9%、「一緒に暮らしている人とのつながりが強くなった」(24.1%)となっている。

■在籍校別でみると、いずれの項目も高校より中学校のほうが高い割合となっている。

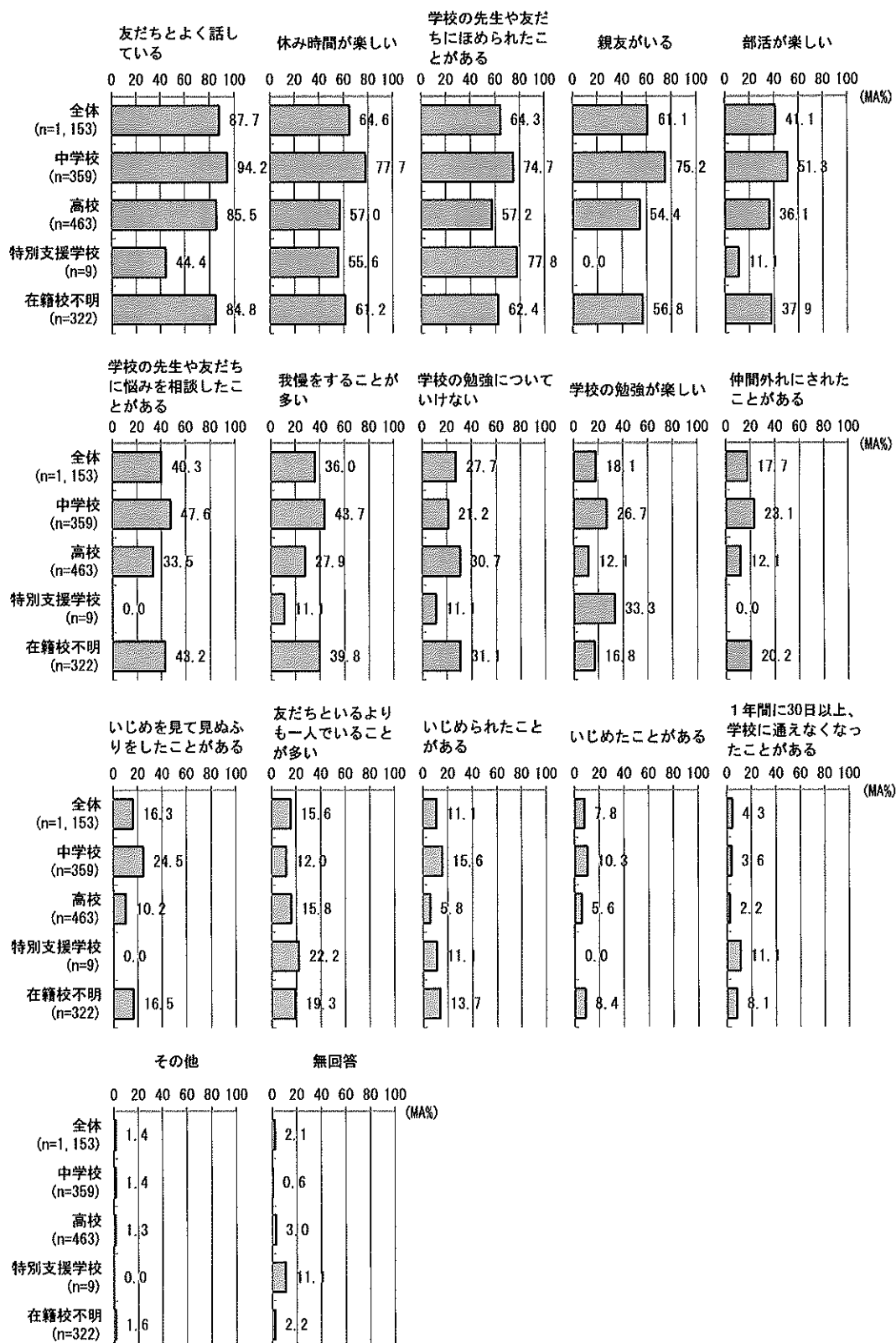


### 3 学校での過ごし方について

#### (1) 今までに学校で経験したこと [問18]

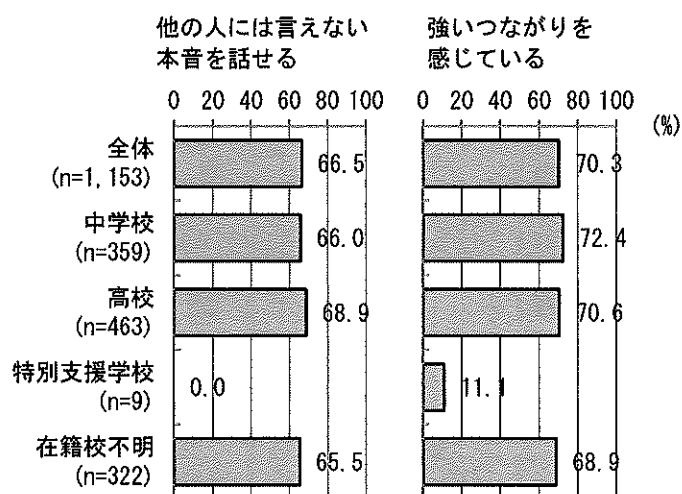
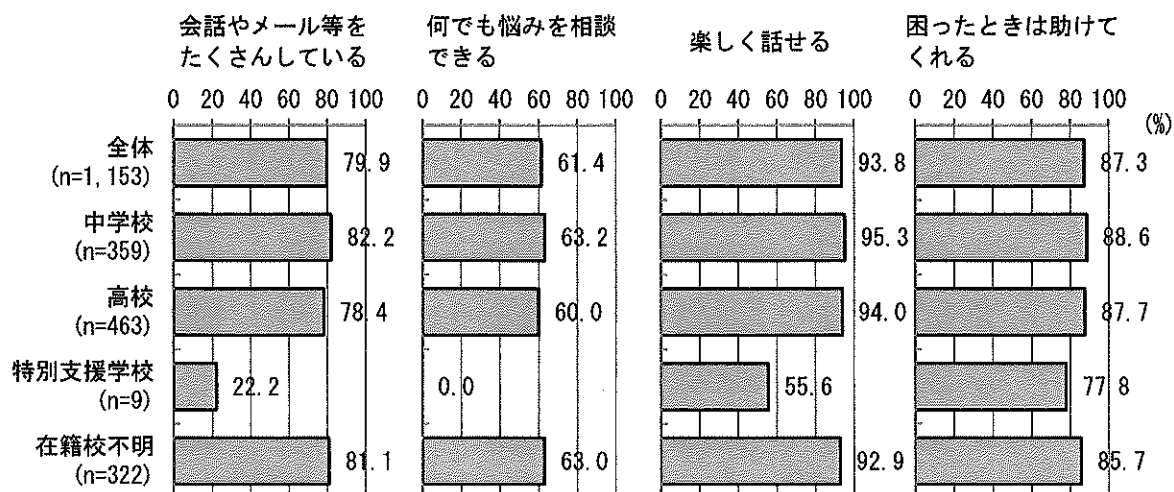
■今までに学校で経験したことについては、「友だちとよく話している」が87.7%で最も多く、次いで「休み時間が楽しい」が64.6%、「学校の先生や友だちにほめられたことがある」(64.3%)となっている。

■在籍校別でみると、「学校の勉強についていけない」と「友だちというよりも一人であることが多い」以外の項目ではいずれも高校より中学校のほうが高い割合となっている。



## (2) 学校で出会った友だちとのかかわり [問19…「はい」の割合]

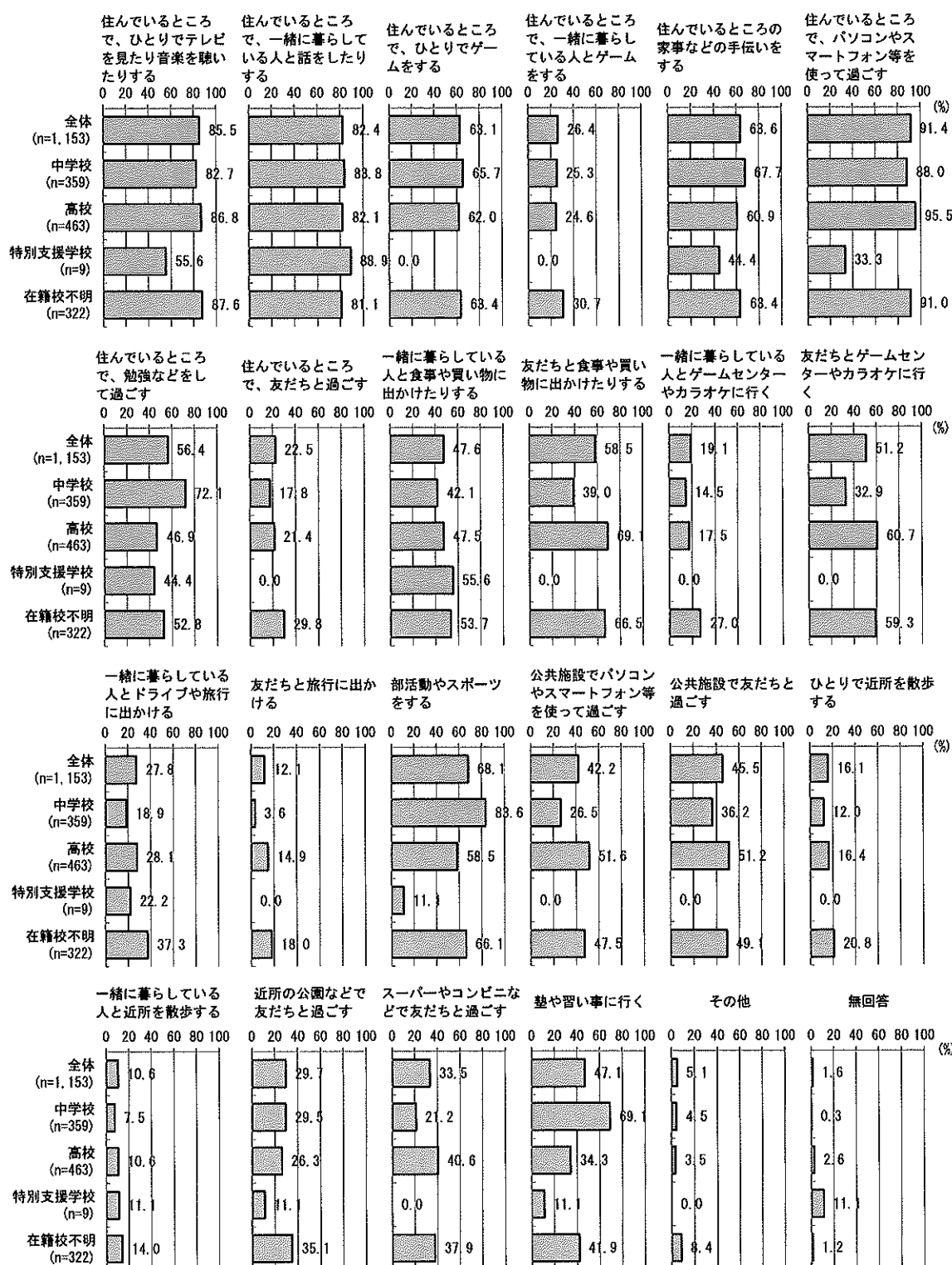
- 学校で出会った友だちとのかかわりについては、肯定意見（「はい」の割合）は「楽しく話せる」が93.8%で最も多く、次いで「困ったときは助けてくれる」が87.3%、「会話やメール等をたくさんしている」（79.9%）となっている。
- 在籍校別でみると、「他の人には言えない本音を話せる」以外の項目ではいずれも高校より中学校のほうが高い割合となっている。



## 4 ふだんの過ごし方などについて

### (1) 平日の学校以外の時間の過ごし方 [問20(1)…「する」の割合]

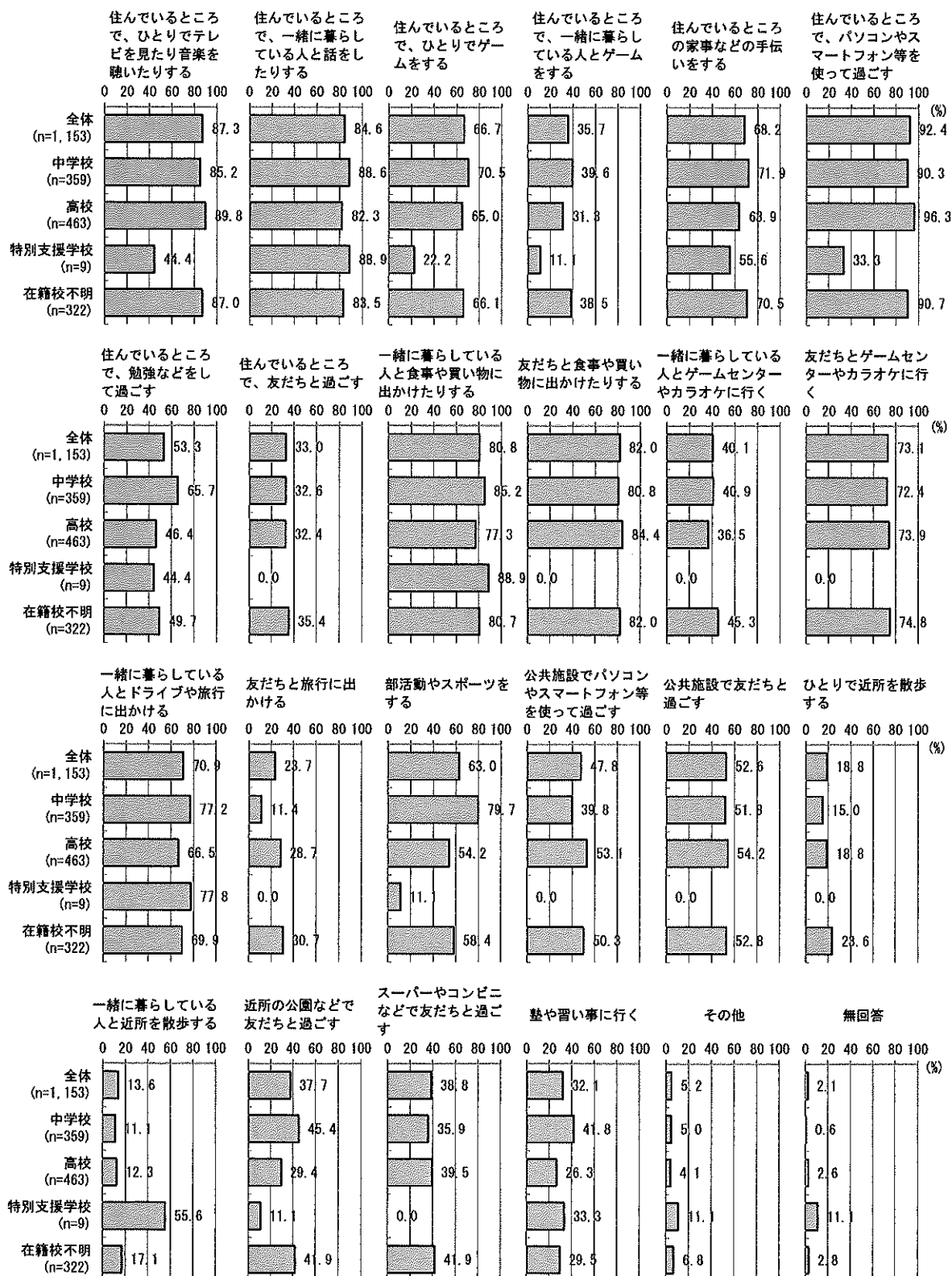
- 平日の学校以外の時間の過ごし方については、「する」の割合は「住んでいるところで、パソコンやスマートフォン等を使って過ごす」が91.4%で最も多く、次いで「住んでいるところで、ひとりでテレビを見たり音楽を聴いたりする」が85.5%、「住んでいるところで、一緒に暮らしている人と話をしたりする」が82.4%となっている。
- 在籍校別でみると、「住んでいるところで、勉強などをして過ごす」や「部活動やスポーツをする」、「塾や習い事に行く」は高校より中学校のほうが2割以上高くなっている。



## (2) 休日の過ごし方〔問20(2) …「する」の割合〕

■ 休日の過ごし方については、「する」の割合は「住んでいるところで、パソコンやスマートフォン等を使って過ごす」が92.4%で最も多く、次いで「住んでいるところで、ひとりでテレビを見たり音楽を聴いたりする」が87.3%、「住んでいるところで、一緒に暮らしている人と話をしたりする」が84.6%となっている。

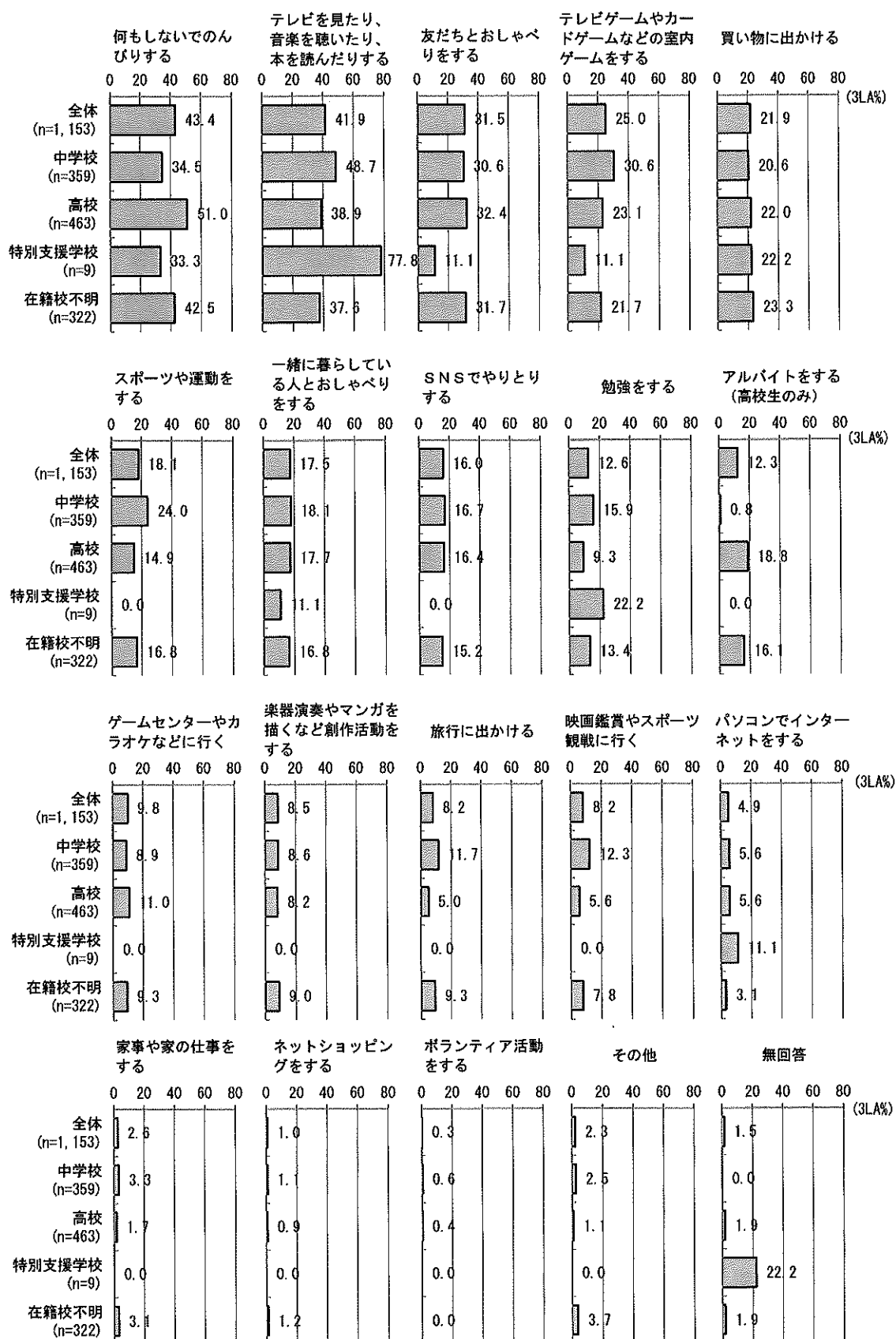
■ 在籍校別でみると、「住んでいるところで、勉強などをして過ごす」や「部活動やスポーツをする」、「一緒に暮らしている人とドライブや旅行に出かける」、「近所の公園などで友だちと過ごす」、「塾や習い事に行く」は高校より中学校のほうが1割以上高くなっている。



### (3) 学校以外の時間の希望する過ごし方 [問21]

■学校以外の時間の希望する過ごし方については、「何もしないでのんびりする」が43.4%で最も多く、次いで「テレビを見たり、音楽を聴いたり、本を読んだりする」が41.9%、「友だちとおしゃべりをする」が31.5%となっている。

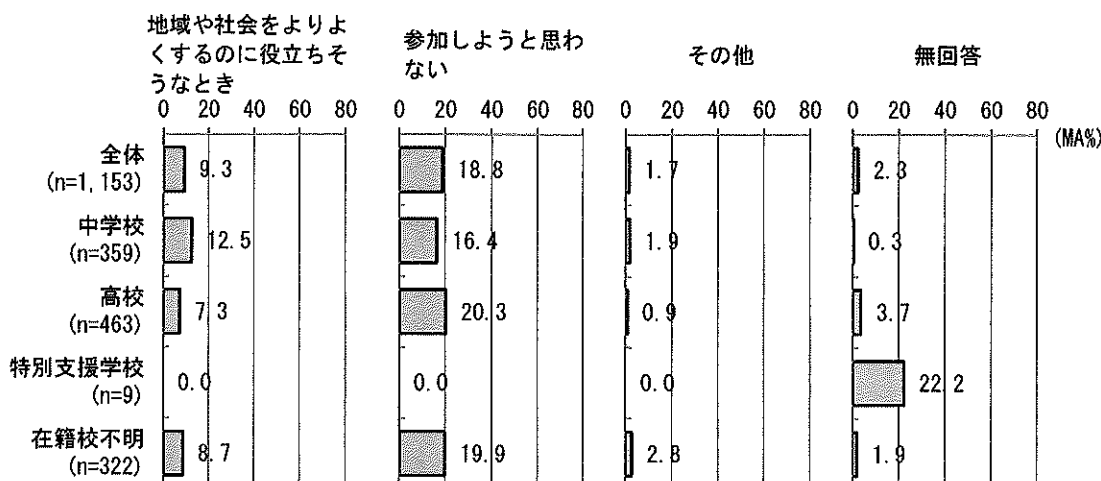
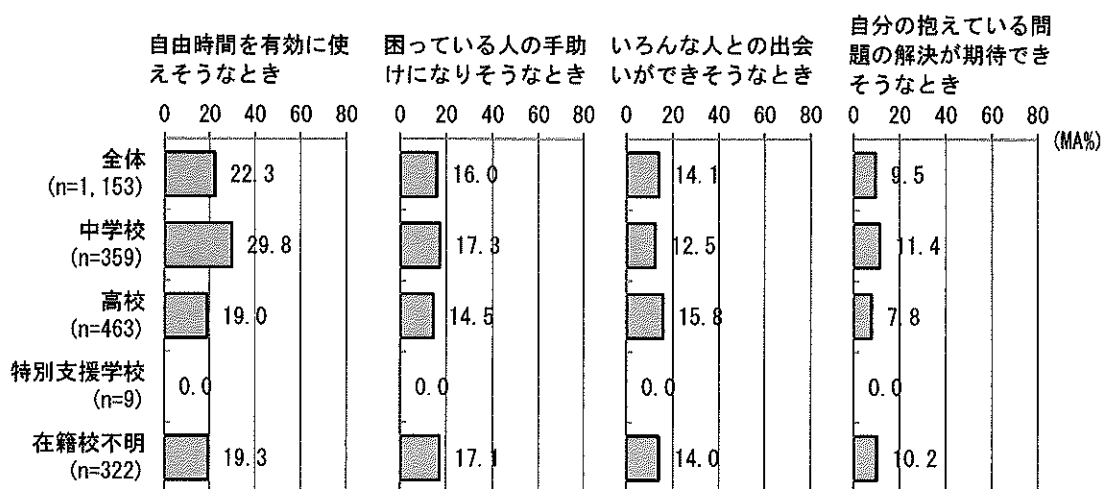
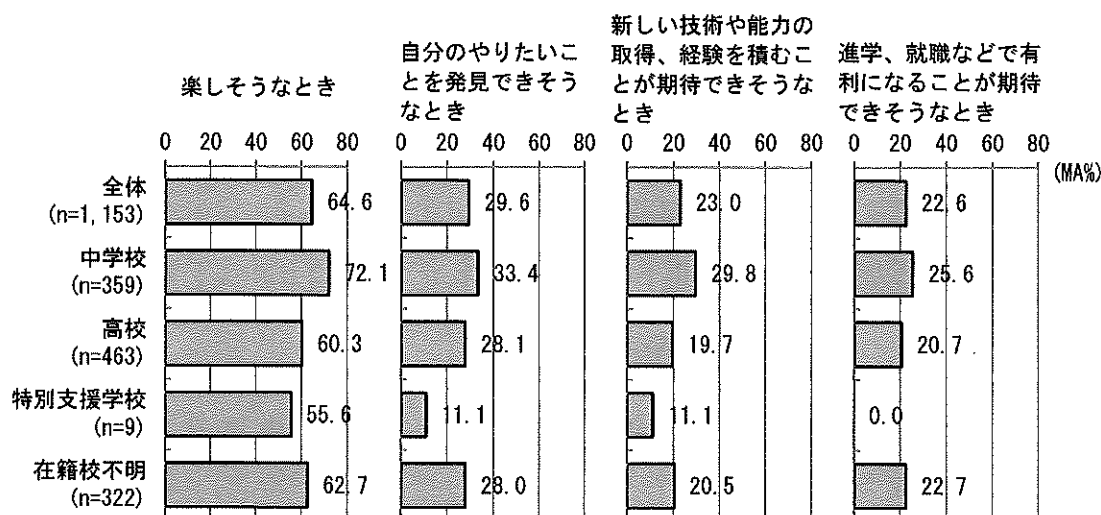
■在籍校別でみると、「何もしないでのんびりする」は中学校（34.5%）より高校（51.0%）のほうが16.5ポイント高くなっている。



#### (4) 学校以外の活動に参加したいと思うきっかけ [問22]

■学校以外の活動に参加したいと思うきっかけについては、「楽しそうとき」が64.6%で最も多く、次いで「自分のやりたいことを発見できそうとき」が29.6%、「新しい技術や能力の取得、経験を積むことが期待できそうとき」が23.0%となっている。

■在籍校別でみると、「いろいろな人との出会いができそうとき」以外の項目で高校より中学校のほうが高い割合となっている。一方で、「参加しようと思わない」は中学校より高校のほうが高くなっている。

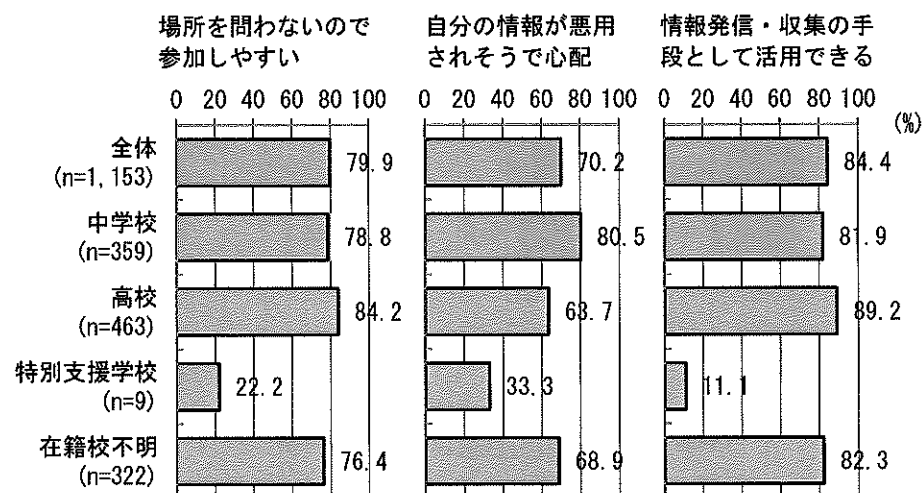
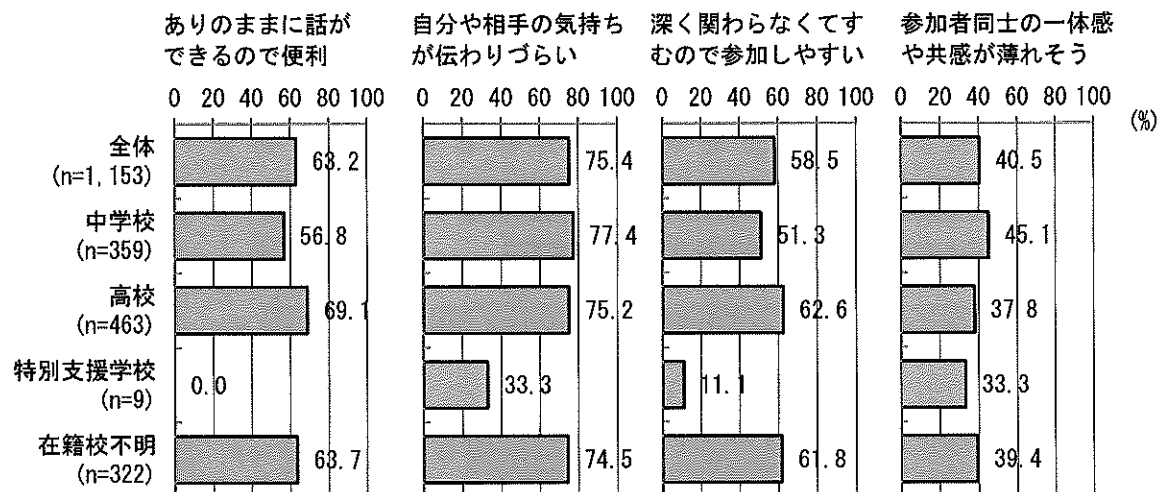


## (5) SNSを利用してコミュニケーションをとることについての考え

[問23…「はい」の割合]

■ SNSを利用してコミュニケーションをとることについての考えは、肯定意見（「はい」の割合）は「情報発信・収集の手段として活用できる」が84.4%で最も多く、次いで「場所を問わないので参加しやすい」が79.9%、「自分や相手の気持ちが伝わりづらい」が75.4%となっている。

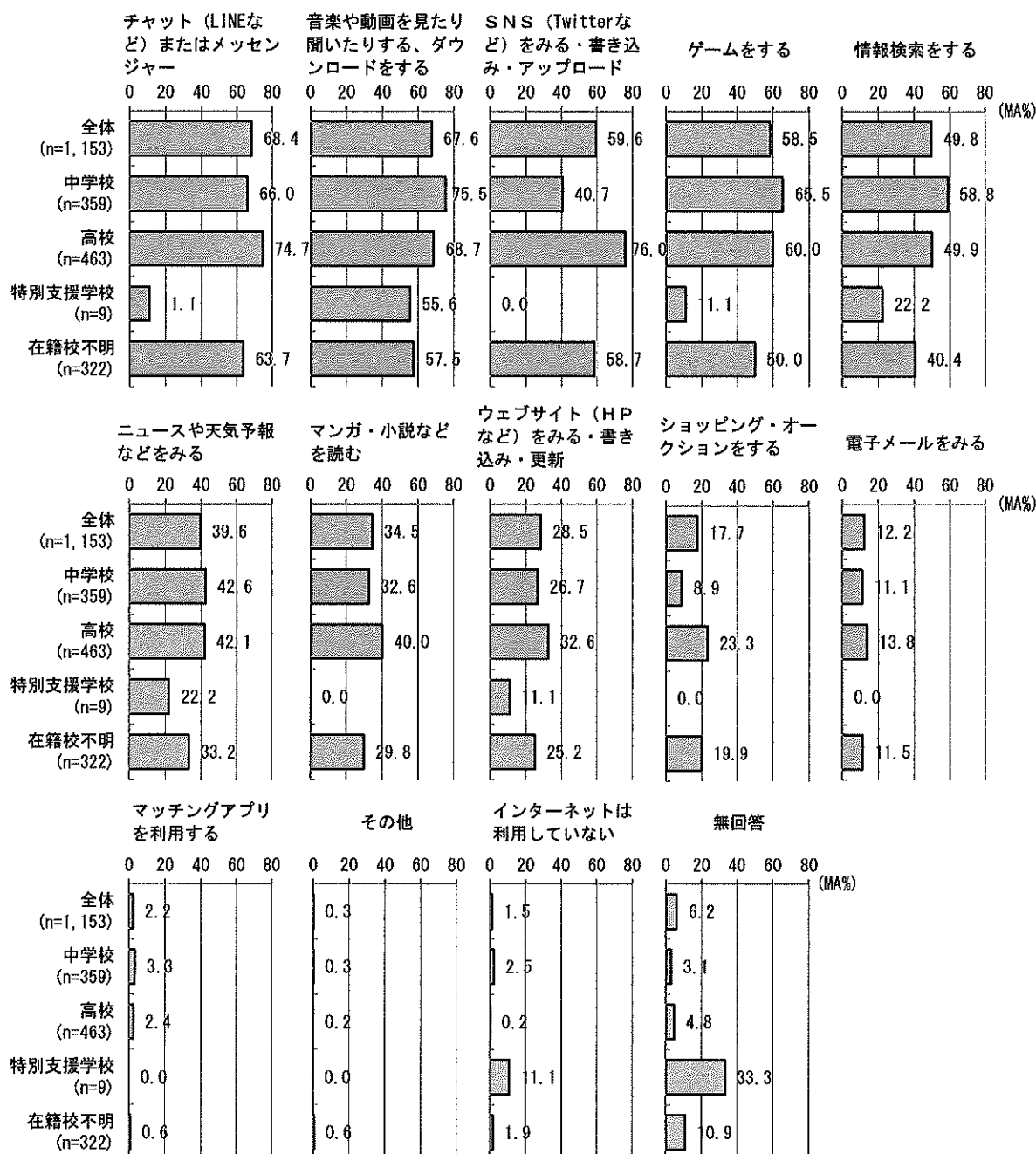
■ 在籍校別でみると、「自分の情報が悪用されそうで心配」は高校（63.7%）より中学校（80.5%）のほうが16.8ポイント高くなっている。



## (6) インターネットの利用目的 [問24]

■インターネットの利用目的については、「チャット(LINEなど)またはメッセージ」が68.4%で最も多く、次いで「音楽や動画を見たり聞いたりする、ダウンロードをする」が67.6%、「SNS (Twitterなど)をみる・書き込み・アップロード」が59.6%となっている。

■在籍校別でみると、「SNS (Twitterなど)をみる・書き込み・アップロード」は中学校(40.7%)より高校(76.0%)のほうが35.3ポイント高く、「ショッピング・オークションをする」も中学校(8.9%)より高校(23.3%)のほうが14.4ポイント高くなっている。

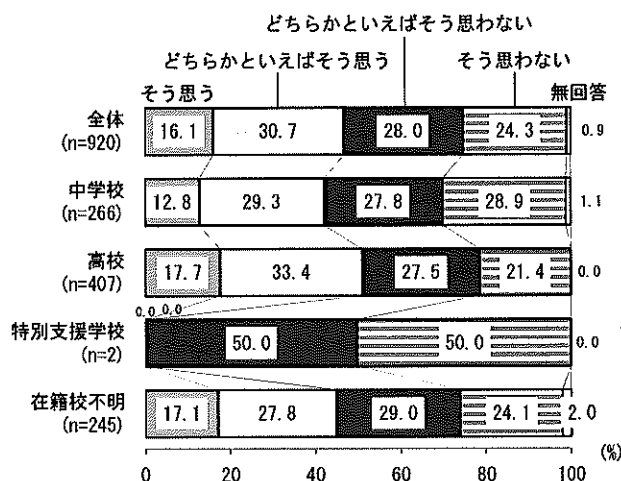


## (7) インターネットやSNSを利用した他者とのかかわり方に対する考え [問25]

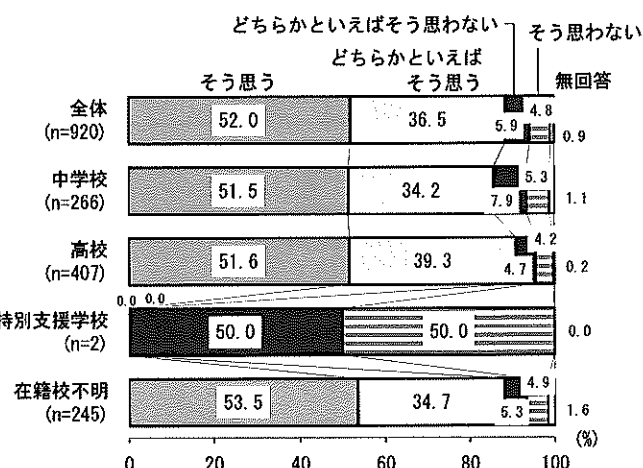
■ インターネットやSNSを利用した他者とのかかわり方に対する考えについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『そう思う』は“②楽しく話せる”が最も高く、88.5%を占めているが、それ以外の項目は5割前後となっている。

■ 在籍校別でみると、いずれの項目も『そう思う』は中学校より高校のほうが高い割合となっている。

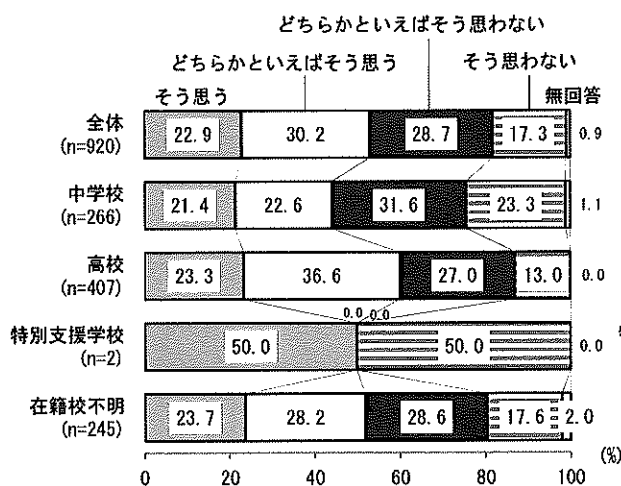
### ①何でも悩みを相談できる



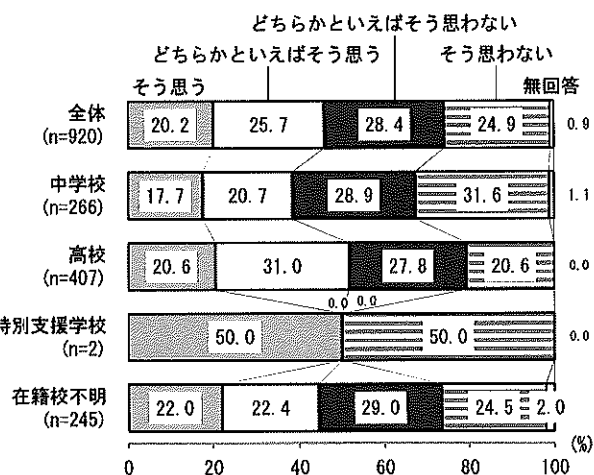
### ②楽しく話せる



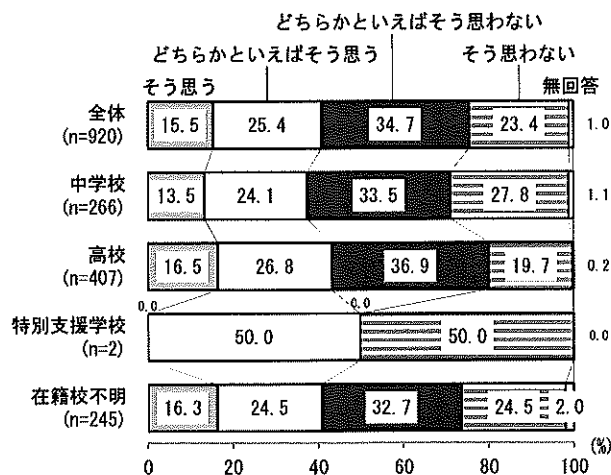
### ③困ったときは助けてくれる



### ④他の人には言えない本音を話せる

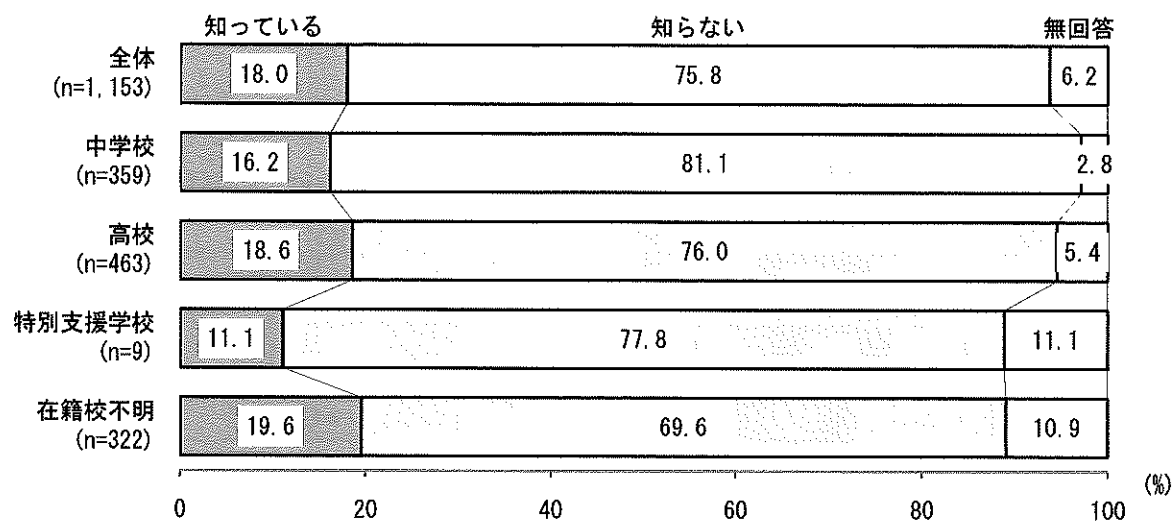


### ⑤強いつながりを感じる



## (8) JKビジネスの認知状況 [問28]

- JKビジネスの認知状況については、「知っている」が18.0%、「知らない」が75.8%となっている。
- 在籍校別でみると、「知っている」は中学校（16.2%）より高校（18.6%）のほうが2.4ポイント高くなっている。



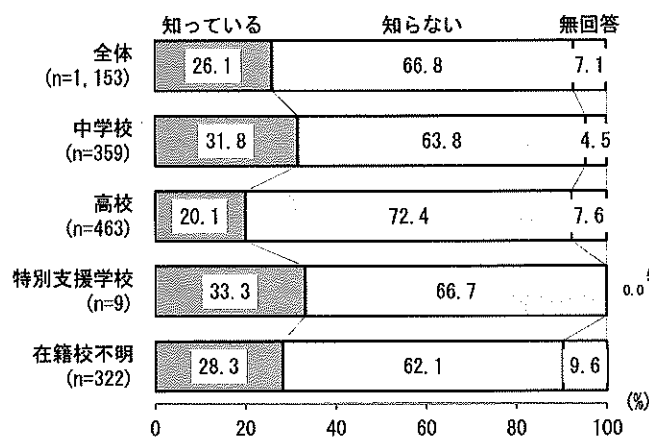
## 5 学校以外の公共施設について

### (1) 認知状況 [問30(1)]

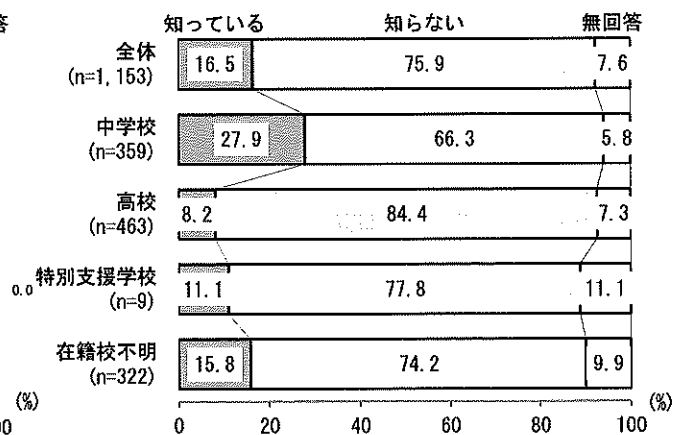
■ 公共施設の認知状況については、「知っている」は“①上中条青少年センター”が26.1%で最も高く、次いで“②多世代交流センター”(16.5%)となっている。

■ 在籍校別でみると、「知っている」はいずれの項目も高校より中学校のほうが高い割合となっている。

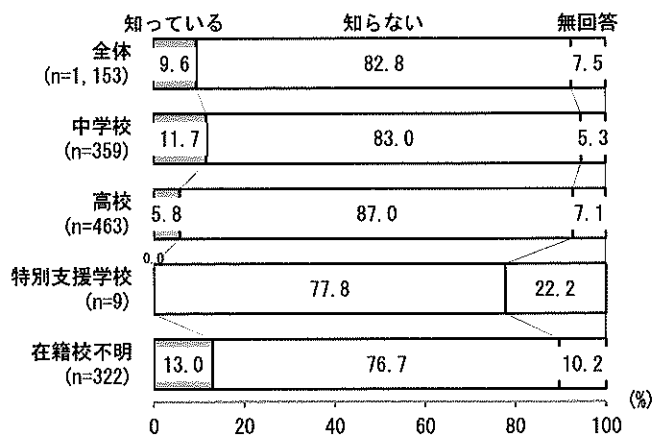
#### ①上中条青少年センター



#### ②多世代交流センター



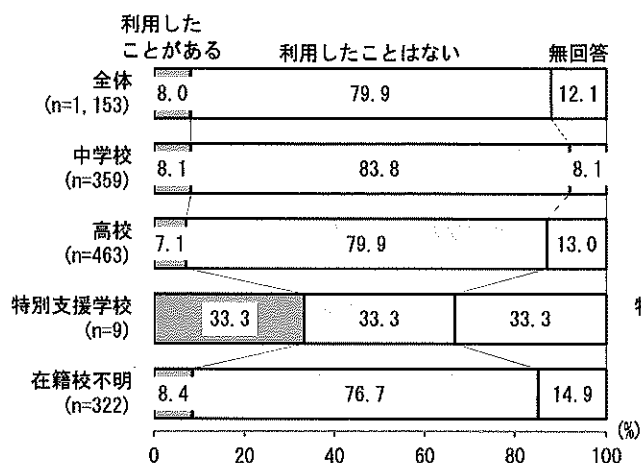
#### ③ユースプラザ



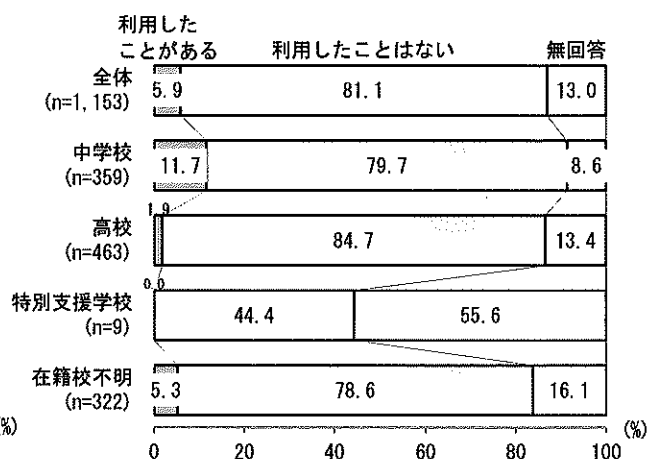
## (2) 利用経験 [問30(2)]

- 公共施設の利用経験については、「利用したことがある」は“①上中条青少年センター”が8.0%で最も高く、次いで“②多世代交流センター”(5.9%)となっている。
- 在籍校別でみると、「利用したことがある」はいずれの項目も高校より中学校のほうが高い割合となっている。

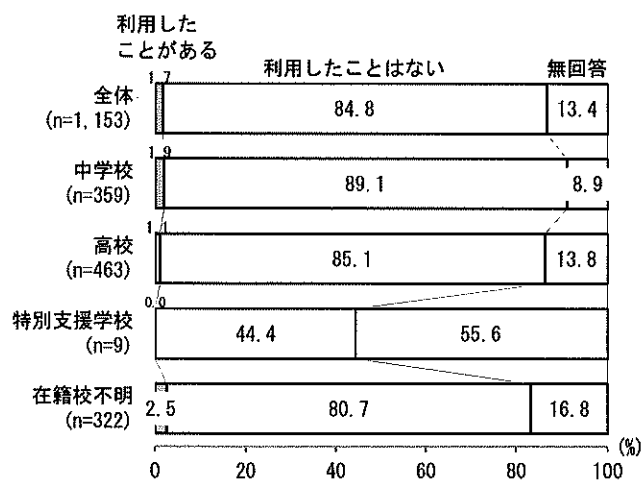
### ①上中条青少年センター



### ②多世代交流センター



### ③ユースプラザ

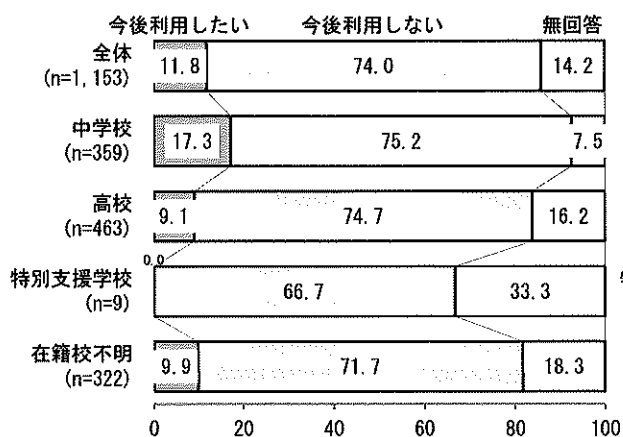


### (3) 利用意向 [問30(3)]

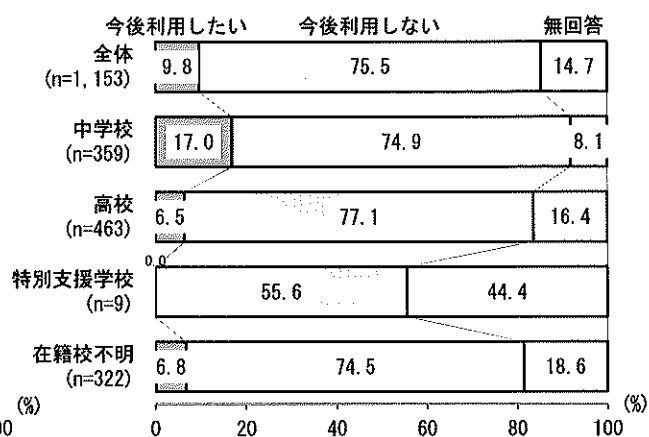
■ 公共施設の利用意向については、「今後利用したい」は“①上中条青少年センター”が11.8%で最も高く、次いで“②多世代交流センター”(9.8%)となっている。

■ 在籍校別でみると、「今後利用したい」はいずれの項目も高校より中学校のほうが高い割合となっている。

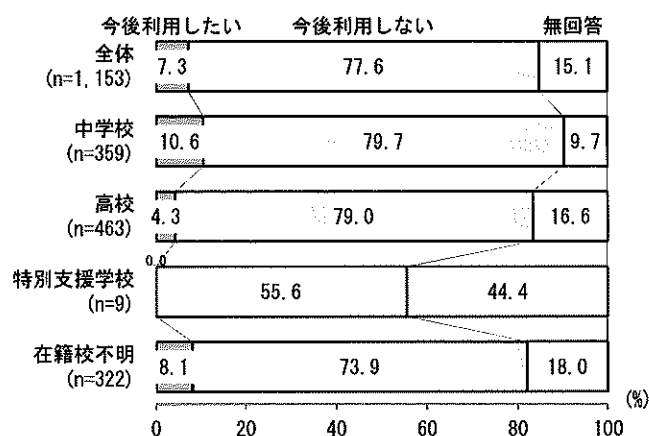
#### ①上中条青少年センター



#### ②多世代交流センター



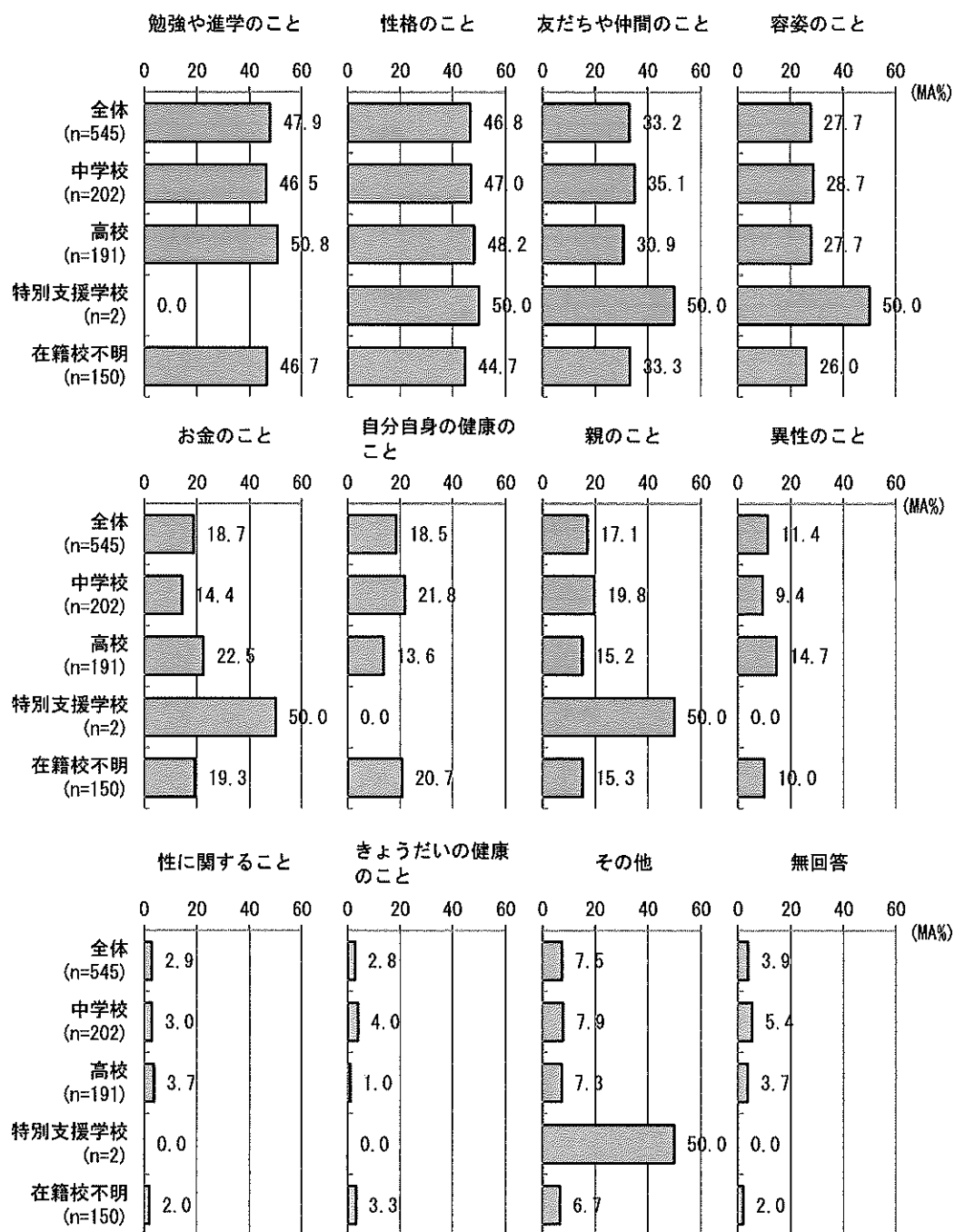
#### ③ユースプラザ



## 6 悩みや相談先について

### (1) 悩みや困っていること [問35]

- 悩みや困っていることについては、「勉強や進学のこと」が47.9%で最も多く、次いで「性格のこと」が46.8%、「友だちや仲間のこと」が33.2%となっている。
- 在籍校別でみると、「自分自身の健康のこと」は高校(13.6%)より中学校(21.8%)のほうが8.2ポイント高く、「お金のこと」は中学校(14.4%)より高校(22.5%)のほうが8.1ポイント高くなっている。



## (2) 悩み事の相談先 [問37]

■悩みや困っていることについては、「学校の仲の良い友だち」が55.1%で最も多く、次いで「親」が53.5%、「学校以外の仲の良い友だち」が17.5%となっている。一方、「誰にも相談しない」は13.7%となっている。

■在籍校別でみると、中学校は「学校の仲の良い友だち」(61.6%)が最も多く、次いで「親」(57.4%)となっているが、高校は「親」(53.8%)が最も多く、次いで「学校の仲の良い友だち」(53.3%)となっている。

